スマートフォンで地域見守りシステム

8月の「青梅ふれあい復興チャリティ」で実験

青梅総合高も協力

青梅商工会議所（館盛和会頭）は、障害者団体の年輪会（青梅市、山崎二郎代表）、クレアンスメアード（青梅市、菊池一夫代表）、サンリツオートメーション（町田市、鈴木一哉代表）と連携し、スマートフォンを活用した「地域見守りシステム」の実証実験を行う。同会議所が運営する「ロボット産業活性化推進機構」の一環として行うもので、8月21日（日）に河辺駅周辺で開催される予定の「青梅ふれあい復興チャリティまつり2011」で実証テストを行う。

携帯電話（スマートフォン）を利用して、障害者、高齢者がエリア内で転倒した場合の要支援情報を、事前に登録した店舗や地域住民、ボランティアにメールで支援要請を行い、地域で携帯端末を介した見守りの仕組みを構築しようという実証実験。同まつりの中で、河辺駅周辺の南北500㍍×500㍍の範囲で行う。河辺北大通り商店会、河辺町商業会、障害者福祉団体の年輪会が協力する。実験は午前11時～午後2時までを予定している。

システム開発はクレアンスメアード（青梅IT事業者協同組合）が、アプリケーション開発はサンリツオートメイションと首都大学東京が担当。アプリは東京都の09年度社会的課題解決型研究開発プロジェクト「介護者の負担軽減や要介護者の安全性向上・アメニティ向上に資する用具・機器の開発」で開発したものを活用する。

また、同実証実験に先立ち、同事業の一環として、都立青梅総合高校（野中繁校長）が22日（金）と25日（月）、バリアフリーマップづくりのための情報収集を河辺駅周辺地区で行う。

同会議所では「健康福祉分野のロボット開発支援は、とかく開発支援中心になりがち。実証実験では、商店や住民など地域のコミュニティと連携した見守りシステムの社会実装を目指しています」としている。

【ロボット産業活性化推進機構】多摩地域のイノベーション促進のため、東京都と都中小企業振興公社が行う「多摩・産業コミュニティ活性化プロジェクト」により設立された3つの産業分野の一つ。

安心して祭りに参加を

独自に放射線量測定

福生市議会が正和会

福生市議会最大会派の正和会（串田金八会長、所属議員10人）は13日、市内での放射線量測定を行った。同市では、小中学校や児童館などで測定しているが、同会は今月末から8月にかけ、市内各町参加し＝写真、各町会の夏祭り会場となる会館や公園等を中心に、6日は熊川地区の12か所、13日には福生地区の約19か所で、地上1㍍と地表面5㌢の測定を行った。市役所周辺などいずれも、0・07～0・12μSv／時を推移し、雨どいや側溝など雨水がたまりやすい場所等でも最大で0・18μSv／時だった。

測定装置は、浦正直さん（70、同市熊川在住）所有の「シンチレーションサーベイメータTCS－151型」（日立アロカメディカル製）を使用。浦さんは同社の製品の修理などを請け負っていた元技術者で、今回の測定に協力。結果には「まったく心配することはありません」と話した。

同会では、7月末までに市内37ある町会の祭り会場を中心に測定するとし、「安心して祭りごとに参加してほしい」と話していた。

経験を活かして将来は医者に

日の出でボランティア活動

輝きの人

フランス人のタニア・テオドルさん

日の出町大久野の福祉施設「日の出太陽の家」に6月から、ボランティアとして来日している仏人のタニア・テオドルさん（19）。日本語が堪能で、施設内にある古民家の武家屋敷で生活し、職員と利用者の支援や福祉イベントの手伝いをしながら毎日を送っている。3・11以後、外国人が日本を離れる中、「日本人はやさしい人ばかり。大好きです」と、満面の笑みを浮かべた。

フランスのリヨン在住で、昨年にNPO法人を通じ、同施設へのボランティアに来たタニアさん。3か月滞在し、施設での生活や日本が気に入り「帰りたくない」と思ったとか。ビザの関係で一旦帰国したものの「また来年必ず来ます」と、職員らに約束。今回の再来日は、その約束を守る形で実現したものだという。

日本への興味は、高校時代に日本語を選択教科にしたことから始まり、「フランスで日本語を話す人はあまりいません。だから、最初は変な言葉だと思ったけれど、勉強するうちに面白いと思った」と話すタニアさん。中でも日本語の擬音がお気に入りで「ピカピカとかゴロゴロとか、好きです」とほほ笑んだ。

1週間に2時間だけしか日本語の授業がないため、インターネットで日本のドラマを繰